

特集 3

商・材・研・究
無線IP電話

オフィス環境の変化が追い風 テスト段階を終え本格導入進む

フリーアドレスの導入などオフィス環境に変化が生じるなか、無線IP電話に注目が集まっている。ユーザーの関心が高い携帯/無線LANデュアル端末に加え、シングルモード機はどこまで伸びるのか。動き始めた市場の動向をレポートする。

事業所コードレスホンのニーズが拡大している。情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)の「2005年度通信機器中期需要予測」によれば、2005年度の出荷金額(見込み)は184億円と前年度比0.5%増と横ばいで推移するものの、06~08年度にかけては、年4~7%増で216億円まで伸張すると予測されている(図1)。

こうした成長の背景には、従来の構内PHSによる事業所内の無線化に加え、「無線IP電話」の導入が進んでいることが推測される。

そこで、注目を浴び始めた無線IP電話に焦点を当ててみたい。なお、

ここではNTTドコモのFOMA/無線LANデュアル端末「N900iL」以外の端末を中心に追っていく。

経験を積む時期だった

無線IP電話市場は今、どういう状況にあるのだろうか。各メーカーの担当者によると、市場は立ち上がり始めているものの、2005年度の時点ではまだ、期待したほどの拡がりを見せていないようだ。NECのUNIVERGEソリューション推進本部の石原伸一UNIVERGEサポートセンター長はその理由として、「今まではベンダーやSIが無線IP電話の経験

を積み、ノウハウを貯める時期だった」と分析する。つまり提案する側もまだ、こなれていなかったのだ。

他方、当面のコンペティターの位置に立つ構内PHSには、安定した音声品質に裏打ちされたユーザーからの根強い支持がある。そのなかで、無線IP電話が置き換えを狙うとすれば、単なる音声端末としてではなく、IPインフラの一部として新しい付加価値を提供することがポイントとなる。そのためには、社内無線LAN環境が構築されていることが条件となるが、まだ大企業や一部の先進企業に限られているのが現状。ここにも無線IP電話市場が広がらない理由がある。

PHSの代替需要については、「企業の無線システムのパイ全体を広げていけばよい」といった意見もある。

血眼になってPHSの置き換えに走るよりも、適材適所で両方伸ばすことを進めるべきというわけだ。

2つの好機が普及を後押し

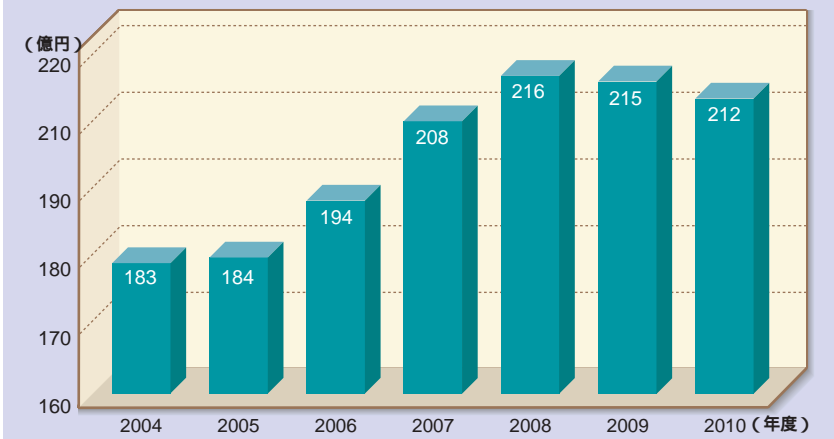
現状ではメーカー側の期待ほどには普及していない無線IP電話だが、追い風は吹いている。オフィス環境の変化と、携帯電話/無線LANデュアル端末の充実ぶりがそれだ。

日立電線 情報システム事業本部情報通信営業統括部の本間豊FMC営業部長は、企業が無線IP電話の導入を検討するタイミングとして、事務所の移転、新社屋建設、PBXの更改、通信コスト削減検討を挙げる。

とについては、そのタイミングで社内のネットワーク設備を無線LANに切り替え、個人の席を固定しないフリーアドレス制を導入する企業が増えている。これに伴い、持ち運びが可能な端末として、無線IP電話とノートPCを選択する機会が増えるわけだ。

また、については、どの企業もIP-PBXやテレフォニーサーバーへの置き換えを検討するフェーズに差しかかっている。とりわけデュアル端末N900iLについては、すべてと言っていいほどの企業が、提案を要望してくるという。企業ユーザーのデュアル端末への関心は非常に高い。今夏、KDDIから「E02SA」が予定通り発売され、端末価格が大幅に下がるよう

図1 事業所コードレスの国内市場予測



出展:情報通信ネットワーク産業協会「2005年度通信機器需要予測」

なことがあれば、急速な普及も予測される。

病院や学校でも採用増加

デュアル端末の拡がり、シングルモードの無線IP電話の普及にもつながる。部分導入からスタートしても、N900iLの利用は社内コミュニケーションに変化を生じさせるからだ。「発信先の相手がどこにいても直接つながるN900iLの利便性を一度体験すれば、顧客は全社的に無線端末の導入を検討したくなる」と話すメーカー担当者もいる。

だが、必ずしも全社員にデュアル端末を持たせる必要はない。ほとんどの企業では、社員を次の3タイプに分けることができる。

幹部や営業担当者のように外出する機会が多い人
総務や経理部門のような自席での作業がメインの人

研究所や工場スタッフなど社内を移動することが多い人

それぞれの割合は各企業によって違ってくる。のタイプにはデュアル端末が、のタイプには固定端末がそれぞれベストな選択だろう。シングルモードの無線IP電話が活きるのはのタイプで、実際の導入案件が最も多いのもこのワークスタイルである。石川島播磨重工業の事例では、約1000台もの無線IP電話が工場に導入されている。採用された端末は、シスコシステムズの「Cisco Wireless IP Phone 7920」だ。

日立インフォメーションテクノロジーの「SIP:AIR@Phone」も、造船所のドッグで使われている。同社が小型のSIPサーバーを用いて無線IP電話市場に参入する際、建築現場やイベント会場、PBXのビハインド、ビジネスホンのリプレース、多店舗展開する流通業をターゲットとしてい

E02SA
KDDI/au初の無線LAN対応携帯電話。06年7月発売。KDDIはそれに合わせて、無線LANケータイ内線ソリューション「OFFICE FREEDOM(オフィスフリーダム)」の提供を開始する